

1. 略歴

- 1977年3月 東京大学教養学部教養学科学士
1979年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻修士課程）修士
1981年9月～1985年7月 ハーヴァード大学 Harvard University フルブライト全額給費奨学生として留学（スラヴ語スラヴ文学専攻博士課程）
1984年6月 ハーヴァード大学修士
1985年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻博士課程）単位取得満期退学
1984年2月～1985年6月 ハーヴァード大学、ティーチング・アシスタント
1985年8月～1989年1月 東京大学教養学部、専任講師（ロシア語教室・教養学科ロシア分科）
1987年10月～1988年9月 ワルシャワ大学東洋学研究所、客員講師（日本語日本文学）
1989年1月～1994年3月 東京大学教養学部、助教授（ロシア語教室・教養学科表象文化論）
1994年4月～2004年3月 東京大学文学部、助教授（スラヴ語スラヴ文学）
2000年5月～11月 ロシア国立人文大学（モスクワ）、客員研究員（国際交流基金フェロー）
2002年10月～11月 モスクワ大学アジア・アフリカ研究所、客員教授
2004年4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、現在に至る
2016年7月 ハーバード大学世界文学研究所（Institute for World Literature）ハーバード大学夏期集中セッションセミナーリーダー（客員教授）

2. 主な研究活動

a 専門分野

近現代ロシアおよびポーランド文学、現代日本文学を視野に入れた世界文学論、越境・亡命文学

b 研究課題

- (1) ロシア・東欧から日本までを視野に入れた形での新たな世界文学論へのアプローチ
- (2) ポスト共産主義時代のロシア東欧文学の総合的研究
- (3) ユーラシア研究という新たな枠組みの中でのロシア東欧文学の位置づけ
- (4) ロシア近代小説の研究と翻訳（特にチェーホフ、ナボコフ）
- (5) 近現代ロシア詩の読解と新しいロシア詩アンソロジーの編纂

c 概要と自己評価

（概要） 興味と活動は近・現代文学全般にわたり、現代世界文学への比較文学的アプローチや現代日本文学の批評・時評も行なっているが、本来の専門領域はロシア文学およびポーランド文学（主として19～20世紀）である。1994年文学部に赴任して以来、スラヴ語スラヴ文学専修課程と並行して、西洋近代語近代文学専修課程の教育・運営に一貫して携わり、2007年4月に西洋近代語近代文学専修課程を改組した形で現代文芸論専修課程が創設されると、こちらに研究・教育の軸を移しながらも、スラヴ語スラヴ文学の専修課程の研究・教育活動にも引き続き関わってきた。またモスクワ大学およびワルシャワ大学との大学間交流協定の実施担当者として、東京大学とこれらの大学との研究交流および学生交換の世話役を一貫して務めてきた。

スラヴ文学の研究と並行して、「世界文学」の視点からできるだけ幅広く現代文学を（日本文学の特殊性と普遍性も視野に入れて）とらえるように努めている。一国一言語の枠内に収まらないような、亡命・越境・二言語併用などの問題に特に関心がある。

2013年からは、5年間にわたる科研費研究プロジェクト（基盤研究(A)）「越境と変容—グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて」（研究期間 平成25年度～平成29年度）の研究代表者として、ロシア東欧研究と、日本・アジアを視野に入れた世界文学研究を融合させた形の共同研究を推進した（分担研究者は17名程度）。

ロシア東欧の専門分野における主要な関心の一つは、ソ連崩壊・東欧革命後の状況を文化史的にとらえることであり、その作業を通じて、因習的なロシア文学史の枠組みを変え、また文化の境界を見直す必要があることを主張してきた。またロシア文学における「詩的」なものの理論化を考えており、小説研究にこれまで偏ってきたため未発達な日本におけるロシア詩理解の基礎を固めるべく努めている。

海外（特にロシア東欧）と日本の文化・文学交流にも関心があり、国際交流基金や文化庁の様々な企画に協力し、ロシアや東欧の作家との交流や、日本文学の海外紹介といった事業にも積極的に参加している。最近では交流対象をアジアにも広げ、中国や韓国の研究者との交流も進めている。そういった機会にできた人的ネットワークも、研究・教育活動に活かしており、スラヴ研究における東アジアの研究ネットワーク構築を目指している。

2015年8月に千葉市幕張で開催された第9回国際中欧・東欧研究協議会（ICCEES）世界大会においては組織委員長を務め、世界49カ国から1300人以上の参加者のあった大規模国際学会の事務局の中心として中欧・東欧研究の国際的ネットワークの強化に努めた。

2016年7月にはハーバード大学世界文学研究所（Institute for World Literature）の夏期集中セッションにセミナーリーダー（客員教授）として招かれ、2週間にわたって世界の若手文学研究者たちと集中セミナーを行い、世界文学研究へのアプローチを試み、また研究者ネットワークを広げることができた。さらに2017年2月27日から3月1日にかけて、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部「新・日本文学」招聘事業 特別講義シリーズの一環として、ハーバード大学世界文学研究所所長の比較文学者、デイヴィッド・ダムロッシュ氏を招聘し Japanese Literature in the World という集中講義を組織することができた。

（自己評価） 研究上の関心と活動範囲が年々広がっていき、またスラヴ語スラヴ文学と現代文芸論の両方の分野にまたがって研究・教育を行っているため、広い視野からのダイナミックな研究・教育活動を目指してはいるものの、研究のためのエネルギーと時間が分散して総花的になりやすく、それぞれのテーマについてきちんとしたまとめができないまま放置してあるものも多い。また年をとるに従って、引き受けざるをえない役職が多くなり、会議や事務的作業に多くの時間をとられる一方で、研究のための集中的な時間の確保がますます難しくなってきた。

ロシア文学研究の分野では、2016年1月にはこれまでのチェーホフ研究のいちおうの決算というべき単行本『チェーホフ 七部の絶望と三部の希望』（講談社）を出版できたのは、一定の成果であった。その後、チェーホフ研究は国際的な研究者ネットワークを構築し、さらに展開すべく計画を練ってきた。2017年にサハリンのチェーホフ博物館の研究者らと国際シンポジウムを行うことができたのは、その一つの成果である。

世界文学研究へのアプローチに関しては、2016年7月にハーバード大学世界文学研究所に招かれて、セミナーリーダーとして世界の若手研究者たちが参加する集中セミナーを2週間にわたって行った経験が大きい。この結果、欧米だけでなく、ロシア東欧や日本・東アジアも視野に入れた世界文学研究の新たな枠組をより具体的に考えられるようになった。

d 主要業績

(1) 著書

編著、沼野充義編、『ポケットマスターピース10 ドストエフスキー』、集英社文庫、2016.7

編著、沼野充義、『8歳から80歳までの世界文学入門 対話で学ぶ<世界文学>連続講義4』、光文社、2016.8

共著、工藤庸子、池内紀、柴田元幸、沼野充義『世界の名作を読む 海外文学講義』、角川ソフィア文庫、2016.8（第5章・第6章、89-124頁を執筆）

編著、沼野充義、『つまり、読書は冒険だ。対話で学ぶ<世界文学>連続講義5』、2017.3

共著、亀山郁夫、沼野充義『ロシア革命100年の謎』、河出書房新社、2017.11

単著、沼野充義『NHK テキスト 100分de名著 スタニスワフ・レム ソラリス』、NHK出版、2017.12

(2) 論文

沼野充義、「親不孝娘の冒険、あるいは人生が芸術を模倣することについて（アヴィーロヴァとチェーホフ）」、『SLAVISTIKA』、XXXI, 257-272頁、2016.6

沼野充義、「村上春樹とドストエフスキー——現代日本文学におけるロシア文学の影響をめぐって」、小森陽一・曾桂秋編『村上春樹における両義性』（村上春樹研究叢書TC003）淡江大学出版中心、83-108頁、2016

沼野充義、「なぜ古典新訳は次々に生まれるのか?」、藤井光編『文芸翻訳入門』フィルムアート社、53-80頁、2017.3
Мицүёси Нумано（沼野充義）、「К изучению истории «истоии русской литературы» в Японии. Конспект доклада」、『れにくさ』7、160-167頁、2017.3

沼野充義、「ヤコブソンとナボコフの確執をめぐって—象、イーゴリ、スパイ」、『SLAVISTIKA』、XXXII, 41-60頁、2017.6

沼野充義、「「かえるくん、東京を救う」と世界文学」、沼野充義監修・曾秋桂編『村上春樹における秩序』、淡江大学出版中心（台湾）、55-80頁、2017.7

(3) 書評

J・M・クツツェー、『イエスの幼子時代』2、日本経済新聞、2016.8.14

エマニュエル・キャレール、『リモノフ』、『中央公論』、2016.9

川上弘美、『森へ行きましょう』(可能世界に展開する「女の多生」)、『新潮』、2018.1

*このほか、『毎日新聞』書評委員として、年間6〜7本、文学・人文関係書の書評を『毎日新聞』日曜書評欄「今週の本棚」に掲載。

(4) 解説

沼野充義、「生を全面的に更新すること——政治の革命と芸術の革命」、神奈川大学評論、86 特集ロシア・東欧の100年、2-3頁、2017.3

沼野充義、「ロシア文学」、本の雑誌編集部編、別冊本の雑誌19『古典名作』、本の雑誌社、27-31頁、2017.8

沼野充義、「アダブテーション論的転回」に向けて」、小川公代・村田真一・吉村和明編『文学とアダブテーション ヨーロッパの文化的変容』、春風社、5-12頁、2017.10 (同書「まえがき」として)

沼野充義、「小説が書けないと泣いていた氷さんへ——だったら『鼻に挟み撃ち』を読んでごらん」、いとうせいこう『鼻に挟み撃ち』、173-182頁、集英社文庫、2017.11

沼野充義、毛利公美(共著)、「ナボコフと演劇」、ナボコフ『処刑への誘い 戯曲 事件 ワルツの発明』新潮社、471-491頁、2018.2

(5) 学会発表

国際会議、沼野充義、「かえるくん、東京を救う」と世界文学」、2016年第5回村上春樹国際シンポジウム、淡江大学(台湾)、2016.5.28

国際、Mitsuyoshi Numano、「Contemporary Tendencies in the Study of Russian and Soviet Literature in Japan: Toward an East Asian Network of Scholars」、East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (上海、中国)、2016.9.2

国際、Мицуюси Нумано、「Составляя новую антологию русской поэзии」、第4回国際翻訳者会議(モスクワ、ロシア) 2016.9.8-11

国際(招待講演)、「20世紀日本の<戦争と平和>—加賀乙彦の大河小説『永遠の都』と『雲の都』を読む」、The 10th Days of Japan at the University of Warsaw (ワルシャワ、ポーランド)、2016.10.24

国際、Mitsuyoshi Numano、「Sarkatvelo Dreaming: Reception of Georgian Images in Japan through Russian Literature」、International Conference “Dialogue between Georgia and Japan: Exploring the History and Future of Scientific and Cultural Exchange” (トビリシ国立大学、グルジア)、2017.6.28

国際、沼野充義、基調講演「人間ならざる者たち」の魅惑と恐怖」、第6回村上春樹国際シンポジウム、同志社大学、2017.7.9

国際、「Чайка летит в космос, а Харуки - на Сахали」、国際学術シンポジウム「チェーホフとサハリン島の文学」(サハリン・チェーホフ「サハリン島」博物館と共催)、東京大学文学部、2017.10.12

国内、沼野充義、「トランプ・プーチン時代のロシア東欧の文化事情」、ロシア・東欧学会、津田塾大学、2017.10.21

(6) 啓蒙

ポーランドの国民作家シェンキエヴィチ生誕170周年・没後100周年記念特別企画、講演「ヘンリク・シェンキエヴィチの生涯と作品」、ポーランド広報文化センター・現代文芸論研究室・スラヴ語スラヴ文学研究室共催、東京大学文学部1番大教室、2016.6.12

沼野充義、「地上ではいまだに戦争で人々が殺しあい」、Rething Books 編『今日の宿題』、Numabooks、66-67頁、2017.5 第8回東京大学文学部公開講座、「ドストエフスキー、トルストイ、チェーホフ——ロシア文学の鬱蒼たる森を探索する」、東京大学文学部1番・2番大教室、2017.6.24

池澤夏樹、沼野充義、鴻野友季子(座談会)「世界文学は越境する」、『池澤夏樹、文学全集を編む』、河出書房新社、46-63、2017.9

ナボコフ・コレクション(新潮社・全5巻刊行記念公開対談、多和田葉子と、新宿紀伊國屋書店、2017.11.7

(7) 会議主催(チェア他)

国内、「世界文学・語圏横断ネットワーク」、チェア、いま世界(の)文学をどう読むか?—研究・教育・出版、東京大学文学部1番大教室、2016.4.9

東大オープン講座「人生に、文学を。」共催企画・コーディネーター、日本文学振興会と共催、東京大学文学部法文1号館115番教室、2016.11.6

ノーベル賞受賞作家アレクシエーヴィチとの対話『「戦争は女の顔をしていない」から『セカンドハンドの時代へ』』企画・司会、現代文芸論研究室主催、東京大学文学部1番大教室、2016.11.25

国際シンポジウム「<聖なる患者>が切り開く文学の未来—ロシアの作家・中世研究者エヴゲニー・ヴォドラスキンを迎えて」企画コーディネーター・パネリスト、スラヴ語スラヴ文学/現代文芸論研究室・国際交流基金共催、文学部1番大教室、2017.3.19

JLPP シンポジウム「日本文学の翻訳をめぐる」チェア、学会館、2018.3.1

EU 文学フェスティバル企画「ヨーロッパ文学の最前線—Rein Raud との対談」、日欧州連合代表部ヨーロッパハウス、2017.11.23

ポーランドの SF 小説家スタニスワフ・レムの夕べ（日本未公開映画上映とパネ・ルディスカッション）、企画およびチェア、ポーランド広報文化センター主催、代官山ツタヤ、2017.11.25

(8) 総説・総合報告

Mitsuyoshi Numano, 「Dialogues with History and Signposts Toward Tomorrow / 過去との対話、未来への道しるべ」、『Worth Sharing』 Vol. 5、2-3 頁、国際交流基金、2017.2

沼野充義、特別企画「カズオ・イシグロのノーベル文学賞受賞と世界文学」、『学術の動向』2018 年 2 月号、72-73 頁

(9) マスコミ

沼野充義、「アンジェイ・ワイダ監督追悼」、毎日新聞、2016.10.19

(10) 翻訳

沼野充義日本語版監修、ジェイムズ・キャントン他著『世界文学大図鑑』越前敏弥訳、三省堂、2016（奥付なし。日付なし）

ウラジーミル・ナボコフ「ワルツの発明」、ナボコフ『処刑への誘い 戯曲 事件 ワルツの発明』、新潮社、345-454 頁、2018.2

(11) 予稿・会議録

沼野充義、「かえるくん、東京を救う」と世界文学」、第 5 回村上春樹国際シンポジウム予稿集、淡江大学（台湾）、31-45 頁、2016.5

Nana Gelashvili, Mitsuyoshi Numano（共編）、『Dialogue between Georgia and Japan: Exploring the History and Future of Scientific Cultural Exchange (Proceedings)』 Department of Contemporary Literary Studies, The University of Tokyo, 130 pp, 2018.3

Mitsuyoshi Numano(編)、『World Literature and Japanese Literature in the Era of Globalization: In Search of a New Canon (Proceedings)』 Department of Contemporary Literary Studies, The University of Tokyo, 212 pp, 2018.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義など

スーパーグローバルハイスクール<グローバル・リーダー学>授業、「グローバル化時代の文学の可能性——日本文学から世界文学へ——」、三重県立四日市高等学校、2016.6.18

日本語教師ロシア赴任前研修講義、「ロシアにおける日本文学の受容 ロシア人は村上春樹がお好き？——源氏物語から村上春樹まで」、日露青年交流センター、2016.8.5

JPIC 読書アドバイザー養成講座基調講、「世界の文学を読む——あまりにも本が多すぎてどこから読んだらわからず途方に暮れているあなたのために」、日本出版会館、2016.8.26

東京大学文学部公開講義、「世界文学への誘い——未踏の沃野のヒロイン、ヒーローは君たちだ」、北海道北見市常呂高等学校、2016.10.7

第 305 回日文研フォーラム「山崎佳代子「セルビア・アバンギャルド詩と『日本の古歌』」コメンテーター、ハートピア京都大会議室、2016.11.15

親鸞賞発表記念東本願寺シンポジウム・パネリスト報告、「紀貫之からマラルメまで——言語が存続するための手段としての詩人たち」、東本願寺（京都）、2016.12.6

JASRAC 講座ミュージック・ジャンクション「世界を旅する音楽 ウクライナの音楽と文学」（講演およびナターシャ・グジーと公開対談）、JASRAC けやきホール、2017.1.27

KAC Performing Arts Program 2016/Contemporary Theater Program 古典戯曲連続講座第 2 回「チェーホフ——チェーホフは森のキノコです」（講義および三浦基との対談）、京都芸術セン、2017.3.12

朝日カルチャーセンター横浜、「連続講義 ユダヤ精神史 第 1 回 ユダヤ学のすすめ（総論）」、朝日カルチャーセンター横浜、2017.4.8

特別連続講演、「(1) О современной японской литературе Восприятие русской литературы в Японии сегодня, (2) Переводя Чехова снова на японский язык」、Музей кн. Чехова «Остров Сахалин», Южно-Сахалинск、2017.5.25

文学サロン講演、「ロシア文学の現在 ペレストロイカからプーチンまで」、日本文芸家協会・脱原発社会を目指す文学者の会共催、日本文芸家協会、2017.7.12

ジョゼフ・コンラッド生誕160周年記念特別企画講演、「ジョゼフ・コンラッドとポーラ」ポーランド広報文化センター・東京大学文学部現代文芸論研究室共催、東京大学文学部2 番大教室、2017.7.14

Global Japan Studies Summer Program 2017 講義「Japanese Literature after World War II: Kawabata, Abe, Oe, and Murakami」、王匡大学東洋文化研究所、2017.8.5

2017年度第4回グローバル・リーダー学「文化研究」分野講義、「グローバル化時代に世界文学をどう読むか？—想像力と人文知をめぐる」、三重県立四日市高等学校、2017.9.9

公開対談（池澤夏樹と）、「チェーホフの『サハリン島』をめぐる」、北海道立文学館、2017.10.22

特別講義、「文学は何の役に立つのか？—「ポスト・トルース」時代のことば」、桐光学院中学・高等学校、2017.11.11

上智大学公開学習センター講義、「日本人とロシア文学—内田魯庵から村上春樹まで」、上智大学、2017.11.15

津田塾大学英文学科企画特別講義シリーズ「カズオ・イシグロ ノーベル文学賞受賞記念連続講演会」第1回、「カズオ・イシグロとノーベル賞と世界文学」、津田塾大学広瀬記念ホール、2017.11.18

NHK『100分de名著』特別講座、「世界文学を徹底的に語りつくす—ドストエフスキーからカズオ・イシグロまで」（島田雅彦と）、NHK文化センター青山教室、2018.1.15

(2) 学会

国内、日本スラヴ学研究会、会長、2015.6～

国内、日本ロシア・東欧研究連絡協議会(JCREES)、幹事、2016.4～

国内、日本学術会議、連携会員、2014.10～

国内、日本スラヴ学研究会、会長、2015.6～

国内、日本ロシア文学会、学会大賞選考委員長、2015.10～2017.10

国内、表象文化論学会、学会賞選考委員、2016～2017